

世界が進むチカラになる。



2026年2月3日

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
株式会社三菱UFJ銀行
三菱UFJ信託銀行株式会社

「株式会社アルテミスベンチャーズ」の事業開始について

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長 亀澤 宏規、以下 MUFG）、株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 半澤 淳一、以下 三菱UFJ銀行）および三菱UFJ信託銀行株式会社（取締役社長 窪田 博、以下 三菱UFJ信託銀行）が2025年10月1日付で発表しました「日本のグロース企業を投資対象とするエクイティ・ファンド設立について」の通り、三菱UFJ銀行は、日本のミッド・レイターステージのスタートアップ（以下 グロース企業）を主な投資対象とするエクイティ・ファンド（以下 本ファンド）の無限責任組合員となる、「株式会社アルテミスベンチャーズ（以下 当社又はアルテミスベンチャーズ）」を設立しました。また、日本の上場・未上場企業への投資において豊富な経験を有する Archibald Ciganer 氏を Managing Partner として招聘し、本日より当社の事業を開始しました。

日本のスタートアップの年間資金調達額は、現在8,000億円に達し、過去10年間で約10倍に増加しました。足元では、調達手段の多様化や海外進出の機会を求めるスタートアップに対し、海外投資家が資金供給を拡大させています。また、外国人創業者が日本に移住しビジネスを開拓するなど、スタートアップエコシステムのグローバル化が進み、その成長は加速しています。

一方で、東証グロース市場の上場維持基準厳格化を受けて、スタートアップは未上場の期間が長くなり、成長のためにより多くのプライベート資本が必要になると予想されています。エグジット手法も多様化しており、新規上場は減少し、M&A やセカンダリー取引が増加しています。

このため、日本とグローバル市場の両方に精通し、あらゆるエグジット手法に長け、上場後も含めて投資先企業の長期的なパートナーとなり得るベンチャーキャピタルが求められています。

このような中、三菱UFJ銀行は、本ファンドを運営する当社を設立し、本日より事業を開始しました。海外機関投資家として、日本の上場・未上場企業に対する15年以上の豊富な投資およびエグジット経験を有する Archibald Ciganer 氏が Managing Partner に就任し、当社をリードします。日本のグロース企業を主な投資対象として、クロスオーバーやダイレクトセカンダリーといった取引にも取り組みます。

また、三菱UFJ銀行および三菱UFJ信託銀行の市場部門からのLP出資により、2026年4月に初号ファンドとなるアルテミス1号投資事業有限責任組合（仮称）が設立される予定です。国内外の投資家のお客さまからもLP出資をいただくことを検討しており、総額500億円規模のファンド組成をめざします。

アルテミスベンチャーズと共に、MUFGは、日本のグロース企業と国内外の投資家をつなぎ、グループ総合力を活用した長期にわたる投資先のバリューアップを通じて、投資先や市場の成長をはぐくみ、魅力的なリターンを投資家のお客さまにとどけられるよう努めてまいります。

【当社概要】

商号	株式会社アルテミスベンチャーズ (英文名 Artemis Ventures, Ltd.)
設立日 (登記日付)	2025年10月27日
事業開始日	2026年2月3日
所在地	東京都港区赤坂3丁目17-3
役員	代表取締役 中尾 俊雄 取締役兼 Managing Partner Archibald Ciganer 取締役 佐野 直
事業内容	ファンドの運営

【本ファンド概要】

商号	アルテミス1号投資事業有限責任組合 (仮称)
形態	投資事業有限責任組合
設立予定日	2026年4月 (ファイナルクローズは2026年度を予定)
ファンド規模	総額500億円規模を想定
GP (無限責任組合員)	株式会社アルテミスベンチャーズ
LP (有限責任組合員)	国内外投資家 (三菱UFJ銀行および三菱UFJ信託銀行を含む)
主な対象企業	日本のグロース企業 (ミッド・レイターステージのスタートアップ)

【Archibald Ciganer 氏 : 略歴】

2000年にBNPパリバ(東京)に入社後、クレジットアナリスト、M&Aアドバイザリー業務を経験したのち、2007年よりティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社においてリサーチ・アナリスト業務に従事。10年以上にわたり、日本株戦略のファンドマネージャーおよび投資部門のCIOを務め、上場株・未上場株に亘り多数の投資案件をリード。特に2018年からは、日本におけるクロスオーバー投資の草分けとなるレイターステージ企業の投資案件に多数関与。また、東京都の「ディープ・エコシステム」の審査員を務めるなど、日本のスタートアップエコシステムの成長を支援してきた経験あり。

以上